

新たな一步に「きぼう」日本実験棟が貢献

フィリピン初の超小型衛星が「きぼう」から宇宙へ!



①「きぼう」日本実験棟から放出されるフィリピンの超小型衛星 DIWATA-1



② DIWATA-1 の放出を見守る関係者

今回の『きぼう』からの衛星放出をきっかけに、わが国の将来の宇宙開発を担う若い人材が多数育つことを期待している
フィリピン科学技術省 アメリア・ゲバラ事務次官

4月27日20時45分頃、フィリピン共和国の第1号超小型衛星「DIWATA-1」(フィリピン語で「妖精」)が、国際宇宙ステーション(ISS)「きぼう」日本実験棟の小型衛星放出機構(J-SSOD)から放出されました。J-SSODを使用した放出としては今回で5回目(13基目)ですが、50kg級の超小型衛星を放出するのは初めての事です。

DIWATA-1には地球観測や気候変動観測のための観測カメラが4種類搭載されており、得られたデータは台風をはじめとする災害の監視、農産物の生育調査などに役立てられる予定です。

DIWATA-1はフィリピン科学技術省から派遣された若手エンジニア達が中心となり、東北大学・北海道大学がその開発・製造に協力。日本とフィリピンとの絆をよりいっそう深めました。

「きぼう」超小型衛星の放出能力がパワーアップ

これまで「きぼう」の小型衛星放出機構からはCubeSatと呼ばれる小さくて軽い1kg級の衛星(縦10cm×横10cm×高さ10cm)の放出を主に行ってきましたが、今回は従来よりも大きくて重い50kg級の衛星(縦55cm×横35cm×高さ55cm)をはじめて放出することができました。CubeSatサイズでも、同時放出数を現在より3倍に増やす計画です。

今後も、超小型衛星の利用機会を発展途上国などに提供し、それらの国々の宇宙関連技術の向上に貢献することを目指しています。



③DIWATA-1 格納の様子



UNITED NATIONS
Office for Outer Space Affairs



Japan Aerospace Exploration Agency

平成27年9月、「きぼう」日本実験棟からの超小型衛星放出の機会提供に関する協力取り決めがJAXAと国連宇宙部の間で締結された。早ければ来年から発展途上国などに向けて年1回程度放出機会が提供される予定となっている。

さらに詳しく知りたい方はコチラ

信頼を、さらに強く。
日本にしか
できないことがある。



宇宙ステーション・きぼう 広報・情報センター

http://iss.jaxa.jp/kiboexp/news/20160427_diwata-1.html

小型衛星放出機構(J-SSOD)

<http://iss.jaxa.jp/kiboexp/equipment/ef/jssod/>

Spacei 宇宙かわら版 2016年5月16日号

※「Spacei」はJAXAとJSFの共同事業です

問い合わせ先: Spacei事務局(一般財団法人日本宇宙フォーラム内)

ホームページ: <http://www.spaceinfo.jp/> お問い合わせ: https://www.science-event.jp/event/spacei_contact/

※特に断りのない限り日付は日本時間です。画像の出典: ①ESA宇宙飛行士Tim Peake氏Twitterより引用 ②,③JAXA

Spacei